

【海洋深層水によるアオノリ栽培】

C： 当方では海洋深層水を使ってアオノリの養殖を行っています。アオノリといいますと、岩や網にくっついて成長するのが普通なんですけれども、当方のアオノリは、アオノリ同士をくっつけてマリモのような形にして、これを海洋深層水の中で浮遊させて養殖するという方法をとっております。海洋深層水を使って育てているので、非常にキレイで香りが高く、色の濃いアオノリができます。

事業開始の当初は収穫量が少なく、年間通して1 t強程度しか採れず、経営がうまくいってない状況でした。近年になって収穫が2 t強にまで増えてきて、それに伴って収益もだんだんと安定してきました。当初の生産目標は年間3 tで、今後、栽培技術をさらに向上させて目標に近づけていくということはもちろんなんですが、やはり生産すると言っても限度があるので、その限度があるところで、いかに収益を上げるかというのが問題です。

今の漁協の中では設備や労働力が不足しているので、ほとんど県外のメーカーに卸している状況で、ちょっと単価が安いです。うちの組合でも小袋でノリの販売を行っているんですが、こちらのほうがかなり単価が高いので、これで収益を上げていかなければいけないと思うんですが、なかなかそれが難しいです。収益を上げたいのであれば、先ほど知事からも話がありましたけど、自分のところで製品を作っていく地産に力を入れていかなければいけないと考えています。

さらに、製品を作るパック詰め過程においては、衛生面など食品を扱っている意識を高めていかなければいけない、そういう問題もあります。

うちのノリをすごく気に入ってくれた田野の女性が、安芸のチリメンジャコと合わせてアオノリのふりかけを作ってくれました。最近、商品として作り始めたばかりで、まだ大々的にはなってないんですけれども、なかなかおいしいです。

また、室戸のホテルでうちのアオノリと泥を混ぜた海草パックを使ってくれています。うちのアオノリだけでやっていくのもいいと思うんですが、高知県のほかの地域の産品と組み合わせて、いいものが作っていただけたらいいなと考えています。

室戸の急峻な海底の地形のおかげで、この海洋深層水がアオノリ栽培に利用できている状況なので、これもジオパークのストーリーの中に組み込んで、一緒にジオパークという流れの中で盛り上げていけたらと考えています。

まだまだアオノリの需要がありますので、もっとうちのような施設が室戸にできて、海洋深層水を使ってもうちょっと儲けが出るような、そういう地域になったらいいなと考えています。今うちの施設で、アオノリ育成の排水を利用してアワビの養殖をしたい、と研究している学生がいます。そういった動きもありますので、もっともっと海洋深層水を利用して、地域の雇用が生まれたいなと考えています。

知事： 深層水アオノリ、地域アクションプランにも参加していただいて本当にありがとうございます。

これからの課題として、どのように黒字を定着させていくかが非常に重要かと思います。例えば、機器の導入、これを加味したとき、今後の収支がどうなるか、プラス面・マイナス面含めて検討が必要かと思いますので、またアクションプランの支援チームも全力で一緒にやらせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

スジアオノリに限った話ではないんですが、さっきおっしゃられたことでちょっと3点ぐらい関連のお話をさせていただきたいと思います。

食品を扱っているという意識を持っているとおっしゃっていましたが、それは、工程から始まって最終的な食品の表示の話をされているんだと思うんですけど、これが本当に非常に大きいみたいですよ。

C : そうですね。今、食の安全ということで衛生面なんかにはすごく気を遣わないといかないと思うんですけど、なかなかそこまで意識が追いつかないというんでしょうか。そういったところが問題じゃないかと思っております。

知事： 産業振興計画の中の、食品加工推進のメニューの一つで、施設の衛生度を高め、その上で食品表示がきちっとできるようにするというのを施策でやっているんですけど、これがなかなか大変です。

地産外商でも非常に重要で、「まるごと高知」へ1回出させていただいて、それを契機に直すことにした方たくさんいらっしゃるそうなので、ある意味、一つの見直しのきっかけにさせていただくためにテストマーケティング事業を使っていたりしています。

次に、地域に資源があるんだけど、加工するときなかなか地場でできない。県外に出ていってしまうということですよ。

できれば地元で、せめて県内でできれば、県内の雇用につながっていく。近場でやればやるほどローコストで生産できるということもありますので、「ものづくりの地産地消」を徹底していきたいと思っています。その強化のために、6月3日にはものづくり地産地消センターを開設しました。地域地域でのものづくりを強化していこうと思いますので、是非使っていただきたいと思います。

最後に、深層水をジオパークの物語に生かそうというお話では、先日、富山県の県議さんが私のところへ来られまして、深層水関係の調査で関連の県を全部回ってるとおっしゃっていました。残念ながら、日本の深層水産業全体が、若干数字的には頭打ち気味に見えています。高知県もゼロから始まって、最高160億円まで伸びましたが、今は110億円から120億円ぐらいで一定落ち着いているような状況になってしまっているかと思っています。富山県はもっと深刻な課題を抱えているようで、これを打開する道を模索している状況です。深層水は今、そういうターニングポイントにあるのかもしれないですね。

しかし、高知県の深層水は夢があると思います。ジオパークという物語とピタリと呼応させることができれば、今、各県連合を組んで深層水産業全体の水平線を広げていこうじ

ゃないかということで、深層水対策室というのを一方の軸として始めているんですが、高知県の深層水の独特の物語を作って、ジオパークの発信力と合わせて発信できていけばいいですね。深層水関係で突然大ヒットする商品が結構ありますからね。本山町の深層水を使って作ったお米も、コンクールでいきなり日本一になりましたからね。ものすごく売れているみたいです。そういうのができたらいいですね。